



日本共産党 北区議会議員

野口まさと 区政レポート

のぐち将人

No.17 2017.3.23

発行：日本共産党北区議員団
〒114-8508 王子本町1-15-22
info@noguchi-masato.com
ご相談は 070-5658-0603
お気軽に

区の新年度予算決まる

まちづくり基金に10億円積み増し

新年度予算案審議される

区議会第一例会は、2月23日から3月2日までの開催でした。今回は新年度予算案の審議が大きな争点となりました。

今回の予算案は、特定基金であるまちづくり基金の十条分として、すでに80億円の基金を積んでいるのに加え、新たに10億円を積み立てる計画となっております。この必要性についてを中心にした質疑を行いました。

中期計画の基金取崩し額は25億円

今回北区自身が示した中期計画（H29か

ら3年間）では、十条まちづくり事業に72億円を支出することになっていきますが、47億円は国の補助金や都

の都市計画交付金で措置されます。そのため3年間でまちづくり基金の取り崩し額は25億円に過ぎません。

そしてこの25億円も、翌年度からの4年間で、ほぼ全額が都の財政調整交付金で戻ってくるのが予算委員会質疑の中で明らかになりました。

10億円積み増しの理由としては、これ以外にも、十条のまちづくり事業全体では160億円かかることや、まちづくり事業は十条以外でも行われるとの説明がありました。160億円かかるのは、

鉄道立体交差化事業が終わる20年以上先まででの話。また今回の10億円の積み立ては、十条地域分としての積み立てですので、十条以外のまちづくりに使

うものではありません。明らかなりました。不要不急の10億円を使って、区民の暮らし充実にための施策を行うよう、日本共産党

予算組み替え動議を提案

このことから、西口再開発など十条のまち

づくり事業を仮に今後進めるとしても、既に積んでいる80億円で充分まかなえることが明らかなりました。不要不急の10億円を使って、区民の暮らし充実にための施策を行うよう、日本共産党北区議員団は、最終本会議で予算組み替えの提案を行いました。与党の反対多数で否決となりました。

共産党北区議員団が予算組み換えで求めた内容（要旨）

- ・認可保育園定員増・保育士処遇改善
- ・認証保育所の保育料補助拡充
- ・学童クラブ待機児解消
- ・こども貧困対策
- ・学校司書配置拡充・日本語適用指導員増員
- ・国保均等割り引き上げの軽減措置
- ・介護事業所への支援拡充
- ・障害者就労支援事業委託法人補助増額
- ・住宅要配慮者への家賃補助実施
- ・ヘルシー入浴券の浴場組合補助増額
- ・区内共通商品券増刷
- ・住宅リフォーム助成制度拡大
- ・家具転倒防止危惧無料配布の継続と感震ブレーカー配布・設置対象拡大
- ・耐震改修助成拡充
- ・コミュニティバス等交通手段拡充

十条まちづくり 特別委員会

今回開催された十条まちづくり特別委員会内での陳情の審査の際に、私の「会派として埼京線の高架構造はやめるべき」との発言をきっかけとして、図らずも、各会派が、平成26年6月の「適切な構造形式の決議」についての考え方を表明することになりました。

東京都に任せただけは従えという姿勢では、住民目線での「適切な構造形式」の判断はできません。地域住民全体の生活向上に資する、かつ地域に負担の少ない計画とするところ、適切な構造形式で事業を進めるよう決議した議会の役割ではないでしょうか

そもそも平成26年の「JR埼京線十条駅付近の連続立体交差化事業の早期実現に関する決議」は、区民の「悲願」である立交事業の早期実現を求めることが趣旨であり、構造形式については「適切な構造形式により」とされています。

この決議の元になった陳情の審査で、日本共産党は「適切な構造形式は地下化だと明記したほうがよい」と提案。これに対し、当時の副区長が、「適切な構造形式とは地下化だけをさすものではない」と答えたことから、共産党区議団は決議の採決時に棄権退場するという態度をとったのです。当時から「地下化で」との日本共産党の主張は一貫しています。

野口（共産）：会派として**高架構造はやめるべき**との態度である。

大沢（自民）：**総合的に判断して高架化**になった。

このあとH26年6月に埼京線の「適切な構造形式」を区議会で審議したことについて、各委員からの発言がありました（敬称略・発言順）

大島（公明）：区民生活委員会では、共産党は地下化が適当だと発言したものの賛成している。本会議の採決時、共産党は退場したが、他は全員賛成。**高架をやめるべきという言葉**を聞くこと自体どうなのか。

大畑（民進ク）：東京都が決めてくださいという意味決定を議会として行った経過を抜きにして、個人的な気持ちを表明することはできない。**高架はやむをえない**。

本田（共産）：委員会では賛成したが、その後構造形式は地下化だけではないという副区長答弁があったので、本会議では適切な構造形式が出るかどうか出し方を含めて（議決に加わらず）退場した。**まずは構造形式の比較設計協議の内容を公開すべき**。

佐藤（無・社民）：適切な構造形式の議論では、それまでの**地下化（の合意）が消えることを明確にして議論を行った記憶はない**。地下化ではなくなったことを議会は合意をし、それにのっとなって次に進むべきという表現はいけないのではないか。**ある種のダマシのテクニックになる**。

吉岡（無・維新）：議会が一度決めたことをリセットするには根拠が必要。いろんな意見があることだけでは根拠としては薄い